

## 技術提案書の審査結果 [詳細版]

### 1. 審査日

平成27年12月19日

なお、新国立競技場整備事業技術提案等審査委員会の開催状況及び各回の議題は、以下の通り。

	開催日	議題
第1回	H27. 8. 17	(1) 議事運営について (2) 新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議について (3) 新国立競技場整備事業の公募について (4) その他
第2回	H27. 8. 25	(1) 新国立競技場整備事業の公募について (2) その他
第3回	H27. 8. 26	(1) 新国立競技場整備事業の公募について (2) その他
第4回	H27. 10. 6	(1) 新国立競技場整備事業の当面の進め方について (2) その他
第5回	H27. 11. 13	(1) 審査について (2) 視察報告 (3) 質問回答について (4) その他
第6回	H27. 11. 24	(1) 審査について (2) その他
第7回	H27. 11. 27	(1) 審査について (2) その他
第8回	H27. 12. 19	(1) 技術提案書提出事業者へのヒアリング (2) 審査 (3) その他

## 2. 審査結果

項目		A 者	B 者
業務の実施方針		112	104
コスト・工期	事業費の縮減	31	28
	工期短縮	177	150
	維持管理費抑制	44	50
施設計画	ユニバーサルデザインの計画	48	53
	日本らしさに配慮した計画	50	52
	環境計画	54	50
	構造計画	52	55
	建築計画	42	60
合計点		610	602

### 3. 審査方法等

技術提案書の審査方法等は以下の通り。

- ① 参加者は、「新国立競技場整備の基本的考え方」（参考資料1）の趣旨に沿って、「求める技術提案書及び審査基準について」（参考資料2）に記載されている「求める技術提案書」を、「技術提案書作成要領」（参考資料3）等に従い作成の上、提出した。
- ② 各委員は、「求める技術提案書及び審査基準について」（参考資料2）のうち「技術提案書の審査基準」に記載されている以下の評価項目、評価基準に従い評価を実施した。その配点は「業務の実施方針」が20点、「コスト・工期」が70点、「施設計画」が50点となっている。

#### ○評価項目

評価項目		評価基準	配点
業務の実施方針 (20)	業務の実施方針	業務内容の理解度（整備すべき施設や、工期遵守・事業費上限額遵守を含め、本事業実施における重要事項の理解度）	20
		重要事項を確実に担保し、確実に本事業を遂行するための取組体制、品質管理の考え方、配慮事項等の妥当性	
コスト・工期 (70)	事業費の縮減	事業費の縮減の実現性（事業費の抑制幅及び事業費縮減策の確実性）	30
	工期短縮	工期短縮の実現性（工期の短さ及び工期短縮策の確実性） （工期短縮の目標は、平成32年1月31日とする）	30
	維持管理費抑制	維持管理費の抑制策の的確性	10
施設計画 (50)	ユニバーサルデザインの計画	提案の的確性、独創性、実現性について総合的に評価	10
	日本らしさに配慮した計画		10
	環境計画		10
	構造計画		10
	建築計画		10
合計			140

- ③ 採点にあたっては、「技術提案書の審査基準」に記載のとおり、評価項目毎に原則としてA～Fの6段階で評価した。ただし、参考資料4「採点の運用方針について」に基づき、「委員が特に必要と考える場合は、委員の判断により、さらに詳細な区分による評価（A'、B'等）を認めることとする」とともに、事業費縮減や工期短縮においては、縮減幅や短縮幅を連続的に評価した。
- ④ 以上により評価された各委員の採点結果の合計点を算出し、これが最も高い者を、優先交渉権者として決定した。

#### 4. 審査講評

本事業は、明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境の中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムを建設する「ナショナルプロジェクト」である。その要求水準は多岐にわたり、特にコスト、工期に関する難易度が高く、上限、期限が定められるとともに、設計・施工を一貫して行う公募型プロポーザル方式（設計交渉・施工タイプ）が採用されている。

今回提出された二つの応募案は、いずれも施設の目的、その内容を示した「要求水準」をよく理解した上で、設計・施工を一貫して行う方式の特徴を十分に発揮した意欲的な提案となっている。

以下、A・B両者の提案の特色を簡潔に述べる。

A者の提案は、

- 観客席を上・中・下の3段にまとめ、それを鉄骨構造で支持し、その構造躯体の上部から、鉄骨と木材を併用した片持梁の大屋根を伸ばして、観客席を覆うかたちをつくっている。
- 外周には、3層の庇を巡らし、その上にプランターを並べ施設全体を緑で包むことが意図されている。
- 大屋根の下面や庇下部、内装などに利用される木材が、日本らしさを生み出す要素となっている。

B者の提案は、

- 観客席を大きく上・下の2段にまとめ、その全体をPCコンクリートの構造体で組み上げ、中間に免震装置を設置する構造としている。また、観客席を覆う大屋根は、大断面の集成材柱の上に乗せられた鉄骨梁で支えられているが、この鉄骨梁は、屋根の重さと平衡するように、建物外周で下に引っ張られ天秤状の構造をつくり出している。
- 建物全体をコンパクトにまとめた上で、ボウル状の観客席の下部を外面に現すことによって、外苑の森に対する威圧感を軽減し、巨大施設と周辺環境とを融和させることが意図されている。
- 建物外面を一周する72本の木造大柱は、日本の伝統建築につながるかたちをつくり出している。

これらの提案に対し、新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議で決定された「新国立競技場の整備計画」を踏まえ、本委員会において決定した審査基準（業務の実施方針（20点）、コスト・工期（70点）、施設計画（50

点)) に沿った評価を行うべく、8回の委員会のほか、専門的内容に関する検討会を13回開催し、専門的知見を有する委員間で議論を重ねるとともに、347項目に及ぶ技術的事項の確認を行うなど、綿密な審査を行った。

委員7名それぞれが、審査項目ごとに採点を行ったものを合計した結果、A者610点、B者602点となった。

A者においては、業務の実施方針、工期短縮、環境計画などが評価され、B者においては、建築計画が高く評価され、維持管理費抑制、ユニバーサルデザインの計画などが評価された。

審査委員の評価の概要は以下の通り。

業務の実施方針について、

- A者においては、意思決定のスピードなど単独施工の強みを評価する意見がある一方で、組織体制が具体的でない、不測の事態において不安が残るとの意見があった。
- B者においては、分割施工や競争的な調達など3社施工の強みを評価する意見がある一方で、3社による繁忙時・緊急時の意思決定スピードや共通仮設、揚重仮設などの調整に不安が残るとの意見があった。

事業費の縮減について、

- A者においては、縮減努力を評価する意見がある一方で、将来の物価上昇に対するコスト管理に不安が残るとの意見があった。
- B者においては、縮減努力を評価する意見がある一方で、内容が十分に詰められていない部分があり、信頼性に不安が残るとの意見があった。

工期短縮について、

- A者においては、初期段階の作業を前倒しすることによる工期短縮効果に加え、その信頼性が高いと評価する意見がある一方で、設計期間が短いことなどに不安が残るとの意見があった。
- B者においては、初期段階の作業を前倒しすることによる工期短縮効果に加え、そもそもPCコンクリート構法を活用していることを評価する意見がある一方で、建築確認前の先行工事に関し行政協議が整わなかった場合の工程の遅延が懸念されるほか、中間層免震構造採用による大臣認定取得等に関わる工程の遅延、想定工事ヤードが確保できなかった場合の工程の遅延などに不安が残るとの意見があった。

維持管理費抑制について、

- A者においては、建築物本体の維持管理費の抑制を評価する意見がある一方で、木部の経年劣化に伴う補修費用やプランターをはじめとする植栽の維持管理費用について不安が残るとの意見があった。
- B者においては、床面積を縮減するなど維持管理費を堅実に抑制すべく努力していることを評価する意見がある一方で、木部の経年劣化に伴う補修費用などについて不安が残るとの意見があった。

ユニバーサルデザインの計画について、

- A者においては、車椅子利用者のサイトラインへの配慮などを評価する意見がある一方で、トイレや階段の配置に課題が残る、動線のわかりにくさなどに不安が残るとの意見があった。
- B者においては、動線やサイン計画が明快でわかりやすいと評価する意見がある一方で、避難時に最上段観客席から客席階段を長距離降りることについて不安が残るとの意見があった。

日本らしさに配慮した計画について、

- A者においては、屋根や軒庇に木を多用し日本らしさを現代的に表現している、明治神宮外苑の環境に調和しているなど評価する意見がある一方で、軒の緑や木材利用に日本らしさや日本的繊細さを感じない、スポーツ施設における日本らしさの表現としては評価できないなどの意見があった。
- B者においては、列柱が力強く、日本の堂々とした木造建築の伝統につながっている、明治神宮外苑の歴史を継承した新しい伝統を表現しているなど評価する意見がある一方で、巨大なPCコンクリートの観客席裏は明治神宮外苑に馴染まないのではないか、木造の列柱は日本らしさの表現とは言えないのではないかなどの意見があった。

環境計画について、

- A者においては、高さが50m以下であること、緑化や木利用で周辺環境と調和する環境計画であること、通風に配慮された計画であることなどを評価する意見がある一方で、プランターの植栽計画の実現性に不安が残るとの意見があった。
- B者においては、全体がコンパクトにまとまっていること、スタンド周囲に外壁がないこと、圧迫感が少ないことなどを評価する意見がある一方で、フィールド芝の計画が不十分、フィールドで自然通風を確保する工夫について不安が残るとの意見があった。

構造計画について、

- A者においては、シンプルな構造で一体感のある大空間となっていることを評価する意見がある一方で、構造詳細に疑義が残る、コンコース上の柱が動線の妨げとなっているなどの意見があった。
- B者においては、天秤式の構造はユニークで屋根が軽快なことや木造の日本の伝統を先端技術で実現している点が評価できるとの意見がある一方で、中間層免震に関して不測の偏心等を考慮した場合の構造の成立性について疑義が残るとの意見があった。

建築計画について、

- A者においては、周辺環境に対する圧迫感を和らげる建築計画であることや8万席増設時の費用が抑制される建築計画であることなどを評価する意見がある一方で、動線が分かりにくく、諸室が詰め込みすぎの感があるなどの意見があった。
- B者においては、平面、断面ともに明快であり、動線も分かり易く将来の対応性もよい、建築物単体としては明快で迫力がある建築計画であることなどを評価する意見がある一方で、強烈な存在感があり、周辺環境との調和が懸念されるなどの意見があった。

限られた期間の中で、これほど高いレベルの提案をまとめた二者の設計・施工の技術力やその提案力を高く評価するとともに、その熱意に多大なる敬意を払うところである。

今回の技術提案において示された様々な優れた知見が、今後の設計・施工に活かされ、竣工した新国立競技場において、全てのアスリートが最高の力を発揮し、世界中に感動を与え、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を成功に導き、さらにその遺産として、後世の人々に長く愛され活用される施設となることを期待する。

なお、本事業の選定プロセスにおいて、先例のない形で技術提案書が公開されたが、こうした取組みを通じて、オリンピック・パラリンピックへの国民の関心が高まることは大変有意義であり、引き続き、透明な整備プロセスとなるよう、積極的に取り組んで頂きたい。

(参考資料)

1. 新国立競技場整備の基本的考え方（平成 27 年 9 月 1 日公募配布資料  
「業務要求水準書」第 3 章. 施設整備 第 1 節）
2. 求める技術提案書及び審査基準について  
（平成 27 年 9 月 1 日公募配布資料）
3. 技術提案書作成要領  
（平成 27 年 9 月 1 日公募配布資料）
4. 採点の運用方針について  
（平成 27 年 11 月 13 日新国立競技場整備事業の技術提案等審査委員会  
（第 5 回）資料 1-1）



## 新国立競技場整備の基本的考え方

新国立競技場は、明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境の中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下この節において、「東京大会」という。）のメインスタジアムとして建設される。

すべてのアスリートが最高の力を発揮し、世界中に感動を与え、東京大会を成功に導く場となり、そのよい遺産として、後世の人々に長く愛され活用される施設となることが望まれる。

そのため、

### ○ 人にやさしく、誰もが安心して集い、競技を楽しむことのできるスタジアム

- ・世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設を目指す。
- ・競技者と観客とが一体感のある空間を作り出し、競技者の最高の力を引き出す。

### ○ 周辺環境と調和し、最先端の技術を結集し、我が国の気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム

- ・豊かな緑とともに、スポーツクラスターの中心を作り出す。
- ・日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する。

### ○ 地域の防災に役立ち、地球全体の環境保存に貢献するスタジアム

- ・災害時の避難及び救援、地球全体の環境負荷の軽減に貢献する。

を施設整備のコンセプトとして、できる限りコストを抑制し、東京大会開催に間に合うように確実に完成させる。

※「業務要求水準書」第3章. 施設整備 第1節. 新国立競技場整備の基本的考え方より抜粋

## 求める技術提案書及び審査基準について

# 求める技術提案書

求める技術提案	記述する内容
施設計画の概要 (A3×3 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○構造、階数、延床面積、建物高さ、建ぺい率、容積率、客席数</li> <li>○施設計画の概要と特徴等</li> </ul>
基本図面 (A2×12 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配置図（外構図を兼ねて作成）（1/2, 000×1 枚）</li> <li>○平面図（主要階）（1/1, 000×2 枚以内）</li> <li>○平面図（全階）（1/2, 000×2 枚）</li> <li>○立面図（1 面以上）（1/1, 000×1 枚）</li> <li>○断面図（1 面以上）（1/1, 000×1 枚）</li> <li>○日影図（等時間日影図）（1/2, 000×1 枚）</li> <li>○イメージパース（全体鳥瞰、全体アイレベル、内観等）（1 枚）</li> <li>○周辺からの動線計画図（1/2, 000×1 枚）</li> <li>○その他、技術提案の特徴を示す任意の図面（縮尺任意×2 枚以内）</li> </ul>
業務の実施方針 (A3×6 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設整備にあたっての基本的な考え方（重視すべき事項）</li> <li>○総括代理人の下、コスト、工期を管理して事業を進めるマネジメントの実施方針</li> <li>○設計段階、工事段階の業務の実施方針</li> <li>○設計段階、工事段階について、チーム編成、各担当者の能力や実績・資格</li> </ul>
事業費 （事業費提案書（指定様式）及び A3×3 枚以内）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業費提案書（指定様式） <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者としての事業費上限額、内訳（工事種目ごとの事業費）</li> <li>・提案した総事業費内で事業実施を実現するための具体的方策</li> <li>・更なる事業費縮減に向けた工夫</li> <li>・縮減方策を最大限実施した場合の事業費の見込み</li> </ul> </li> <li>○主要工種（例：スタンド、屋根等）のコスト計画に関する考え方</li> <li>○事業期間を通じた、事業費抑制のためのコスト管理計画・手法の考え方</li> </ul>
工期 （工程計画（指定様式）及び A3×3 枚以内）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工程計画（指定様式） <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計、施工技術検討、建設、工事監理の工程</li> </ul> </li> <li>○工期を短縮するための具体的方策、工期・完成期限*及び設計工程表、総合工事工程表及び総合施工計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>*事業の期間・完了日及び設計業務の期間・完了日、工事施工等業務の工期・完了日（建物の完成期限であり、引き渡し日）について記載。</li> </ul> </li> <li>○主要工種（地下躯体、スタンド、屋根等）の工期短縮に関する考え方</li> <li>○事業期間を確実に遵守するための工程管理計画の考え方（設計、施工共に）</li> </ul>
維持管理費抑制 (A3×2 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○維持管理費を抑制させるための設計における具体的方策</li> </ul>
ユニバーサルデザインの計画 (A3×2 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設とするための具体的方策</li> </ul>
日本らしさに配慮した計画 (A3×3 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する方策</li> <li>○日本の気候・風土、伝統を踏まえた木材利用の方策</li> </ul>
環境計画 (A3×3 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境や景観等に調和するための具体的方策</li> <li>○環境負荷軽減のための具体的方策・設備計画</li> </ul>
構造計画 (A3×3 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○屋根を含む構造計画</li> </ul>
建築計画 (A3×3 枚以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観客席の形状及び観客の動線計画、避難計画等を含む建築計画</li> </ul>

※ 文字の大きさは 10 ポイント以上（イラスト等に含まれる文字についてはこの限りでないが、判読が困難である場合は当該部分を評価できないことがある）とする。

# 技術提案書の審査基準

技術提案の審査は、応募者から提出された技術提案書を総合的に用いて行う。

必須項目：業務要求水準書の基礎事項（施設規模や工期、事業費等）を満たしているか確認する。

評価項目：発注者が特に重視するコストや工期の縮減、ユニバーサルデザインなどについて評価する。

※ 採用した評価項目の技術提案については、契約書に添付し、受注者は技術提案に基づいた業務の履行を行うものとする。

## ○必須項目

下記の審査基準を充足している場合、適格とする。必須項目を1項目でも充足していない場合は失格とする。

必須項目	審査基準
施設計画*	事業計画地内にて配置計画がされていること。
	延床面積や客席数が要求水準を満たすこと。
	施設規模が関係法令・都市計画へ適合していること。
	建物の屋根の覆う範囲が要求水準を満たすこと。
事業費	総事業費が発注者の指定する上限額以下となっていること。
工期	建物の完成期限が平成32年4月30日以前となっていること。

※ 施設計画については、技術提案の一部が審査基準を充足しているか判断できない場合でも、技術的事項の確認により審査基準を満たす見込みが高いと考えられる場合については、必須項目を充足しているとみなす。

## ○評価項目

評価項目		評価基準	配点
業務の実施方針 (20)	業務の実施方針	業務内容の理解度（整備すべき施設や、工期遵守・事業費上限額遵守を含め、本事業実施における重要事項の理解度）	20
		重要事項を確実に担保し、確実に本事業を遂行するための取組体制、品質管理の考え方、配慮事項等の妥当性	
コスト・工期 (70)	事業費の縮減	事業費の縮減の実現性（事業費の抑制幅及び事業費縮減策の確実性）	30
	工期短縮	工期短縮の実現性（工期の短さ及び工期短縮策の確実性） （工期短縮の目標は、平成32年1月31日とする）	30
	維持管理費抑制	維持管理費の抑制策の的確性	10
施設計画 (50)	ユニバーサルデザインの計画	提案の的確性、独創性、実現性について総合的に評価	10
	日本らしさに配慮した計画		10
	環境計画		10
	構造計画		10
	建築計画		10
合計			140

評価項目ごとに、原則として各項目の配点に6段階の評価に応じた係数を乗じたものを点数とする。

$$\underline{\underline{\text{配点} \times \text{係数} = \text{点数}}}$$

	評 価	係 数
A	特に優れている	1.0
B	優れている	0.8
C	やや優れている	0.6
D	普通である	0.4
E	やや劣る	0.2
F	評価対象となる提案なし	0

点数の合計点が高い者から順位を付け、最も優れた技術提案書を選定する。

## 技術提案書作成要領

### 1 総則

技術提案書の用紙サイズは、求める技術提案毎に定めるものとし、片面使いとする。全体の用紙枚数は、表紙、「2 会社実績・技術者名等一覧及び担当者実績」を除き、合計43枚以内とすること。また、技術者名等一覧（別紙様式2）及び参加・協力設計事務所（別紙様式3）を除き、技術提案書、説明図及び説明書類には会社名等を記載しないこと。

### 2 会社実績・技術者名等一覧及び担当者実績

- (1) 会社実績・技術者名等一覧及び担当者実績はA4判縦、片面使いとする。
- (2) 会社実績は、競争参加資格確認申請書に記載した工事施工等業務を担当する者の会社実績について、技術者名等一覧とは別に、工事の内容、特徴、写真、本事業との内容の類似性と本事業への適用性（どのような点を本事業に活用できるか）等を記載し、1社につき1件、任意様式A4判片面1枚以内に記述すること。
- (3) 技術者名等一覧（別紙様式2）は、競争参加資格確認申請書に記載した管理技術者、監理技術者、主任技術者について、設計者、工事施工者、工事監理者に分けて記入すること。所属欄は、当該技術者が所属する会社名及び現在の所属部署を記入すること。
- (4) 担当者実績は、競争参加資格確認申請書に記載した管理技術者、監理技術者、主任技術者の同種・類似業務の実績について、工事の内容、特徴、写真、本事業への適用性、類似性（どのような点を本事業に活用できるか）等を記載し、1名につき1件、任意様式A4判片面1枚以内に記述すること。
- (5) 設計企業に関して、応募者である単体企業又は共同企業体の構成員、及び予定している協力設計事務所について、別紙様式3に、業務区分、作業内容及び延従事予定技術者人数を記入すること。なお、複数の参加・協力設計事務所がある場合は、別々の用紙に記入すること。

### 3 求める技術提案

- (1) 次に掲げる課題等の技術提案について、指定の用紙枚数の範囲内で記述すること（様式任意）。なお、当該課題名称を必ず記入すること。文字の大きさは10ポイント以上（イラスト等に含まれる文字についてはこの限りでないが、判読が困難である場合は当該部分を評価できないことがある）とする。

番号	求める技術提案	用紙サイズ	用紙枚数
①	施設計画の概要	A3	3枚以内
②	基本図面	A2	12枚以内
③	業務の実施方針	A3	6枚以内
④	事業費		3枚以内及び別紙様式4（事業費提案書）
⑤	工期		3枚以内及び別紙様式5（工程計画）
⑥	維持管理費抑制		各2枚以内
⑦	ユニバーサルデザインの計画		各3枚以内
⑧	日本らしさに配慮した計画		
⑨	環境計画		
⑩	構造計画		
⑪	建築計画		

※次に掲げる課題のうち、④事業費、⑤工期、⑥維持管理費抑制、⑦ユニバーサルデザインの計画、⑧日本らしさに配慮した計画、⑨環境計画、⑩構造計画、⑪建築計画については、指定の用紙枚

数に加えて、必要に応じて説明図、説明書類を参考添付することができる。説明図、説明書類は任意様式A3判片面で合計10枚以内とし、参考添付資料である旨を明記すること。

(2) 各課題等について、以下の点に留意して提案を行うこと。

- 「新国立競技場整備事業 業務要求水準書」(以下「業務要求水準書」という。)や関係法令、競技団体等が示す各種ガイドライン等を満たす提案とすること。
- 事業費上限内で、完成期限内に完成・引渡しを行うことを前提とした提案を行うこととし、そのために提出者が持つ知的財産や独自のノウハウ等を活用する場合は、具体的に当該技術等の名称等を用いて提案することができる。
- 東日本大震災の復興事業や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた建設需要の増加、これに伴う技能労働者の不足等も考慮し、構工法の合理化等により本事業が建設市況全体に与える影響を十分に配慮した提案を行うこと。
- 文章を補完するための最小限の写真、イラスト及びイメージ図並びにエスキス及びスケッチを記載又は貼付することができる。
- 提案内容は具体的なものとし、抽象的な提案は評価しないこととする。

### ① 施設計画の概要

以下について、記述すること。

- 構造、階数、延床面積、建物高さ、建ぺい率、容積率、客席数
  - ・延床面積については、業務要求水準書のP.3-2「表2 新国立競技場の施設構成(導入機能と規模)」における合計面積を書くこと。
- 施設計画の概要と特徴等
  - ・特に特徴については、目的、内容、想定される効果について具体的に記入する。

### ② 基本図面

以下について、記述すること。

図面等	縮尺	用紙枚数
配置図(外構図を兼ねて作成)	1/2,000	1枚
平面図(主要階)	1/1,000	2枚以内
平面図(全階)	1/2,000	2枚
立面図(1面以上)	1/1,000	1枚
断面図(1面以上)	1/1,000	1枚
日影図(等時間日影図)	1/2,000	1枚
イメージパース(全体鳥瞰、全体アイレベル、内観等)	—	1枚
周辺からの動線計画図	1/2,000	1枚
その他、技術提案の特徴を示す任意の図面	縮尺任意	2枚以内

※配置図等において、地区計画の地区施設や立体都市公園が分かるよう、適宜明示すること。

※周辺からの動線計画図等において、サブトラック等ウォームアップ施設(業務要求水準書P.2-2)からの動線計画についても明示すること。

### ③ 業務の実施方針

以下について、具体的に記述すること。

- 施設整備にあたっての基本的な考え方(重視すべき事項)
  - ・施設整備全体の取組にあたっての基本的な考え方(重視すべき事項)を記述すること。

- 総括代理人の下、コスト、工期を管理して事業を進めるマネジメントの実施方針
    - ・総括代理人の下でのマネジメントの実施方針、提案事業費や完成期限を遵守するための方針を記述すること。
  - 設計段階、工事段階の業務の実施方針
    - ・設計業務（基本設計、実施設計、設計意図伝達）、工事施工等業務（施工技術検討、工事施工）及び工事監理業務のそれぞれについて、業務の実施に当たっての方針、共同企業体の場合は各構成員間の協力関係構築に向けた方針などを記述すること。
  - 設計段階、工事段階について、チーム編成、各担当者の能力や実績・資格
    - ・設計業務（基本設計、実施設計、設計意図伝達）、工事施工等業務（施工技術検討、工事施工）及び工事監理業務のそれぞれについて、業務実施にあたってのチーム編成、チームの特徴、各担当者の能力や実績・資格などを記述すること。
- ※設計業務について、応募者が建築分野、構造分野等以外の独立した業務分野を任意で追加することは差し支えない。

#### ④ 事業費

以下について、具体的に記述すること。また、事業費提案書については、別紙様式4により記述すること。（3（1）で指定しているA3判3枚以内に加えて提出すること。）

- 事業費提案書
  - ・事業者としての事業費上限額、内訳
  - ・提案した総事業費内で事業実施を実現するための具体的方策
  - ・更なる事業費縮減に向けた工夫
  - ・縮減方策を最大限実施した場合の事業費の見込み
- 主要工種（例：スタンド、屋根等）のコスト計画に関する考え方
- 事業期間を通じた、事業費抑制のためのコスト管理計画・手法の考え方
  - ※配慮した項目ごとに、目的、内容、想定される効果を具体的に記述すること。

#### ⑤ 工期

以下について、具体的に記述すること。また、工程計画については、別紙様式5により記述すること。（3（1）で指定しているA3判3枚以内に加えて提出すること。）

- 工程計画
  - ・設計、施工技術検討、建設、工事監理の工程
- 工期を短縮するための具体的方策、工期・完成期限及び設計工程表、総合工事工程表及び総合施工計画
  - ・工期・完成期限については、事業の期間・完了日及び設計業務の期間・完了日、工事施工等業務の工期・完了日（建物の完成期限であり、引き渡し日）について記載すること。
  - ・提案においては、その具体性・実現性、安全性、近隣の方々への配慮にも、十分に考慮すること。またそれらの考慮した点について、特筆すべき事項は技術提案書に記述すること。
  - ・総合工事工程表は、準備工事段階からの工程とし、試運転、受電、各種検査期間・性能検証期間等についても表現すること。また、クリティカルパスを太線・赤線で表示すること。
  - ・総合施工計画は、準備工事段階からの施工計画とすること。また、内容は総合工事工程表と対応したものとすること。
  - ・実施設計段階・工事段階の業務スケジュールの概略を提示し、各フェーズで行う具体的な業務内容や想定される課題と解決策等を記述すること。
- 主要工種（地下躯体、スタンド、屋根等）の工期短縮に関する考え方
- 事業期間を確実に遵守するための工程管理計画の考え方（設計、施工共に）



⑥ 維持管理費抑制

以下について、記述すること。

○維持管理費を抑制させるための設計における具体的方策

- ・考慮した建築計画及び設備（電気、空気調和、給排水衛生、昇降機等）のシステムごとに、目的、内容、想定される効果を具体的に記述すること。

⑦ ユニバーサルデザインの計画

以下について、記述すること。その際、配慮した項目については、それぞれ目的、内容、想定される効果を具体的に記述すること。

○世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設とするための具体的方策

⑧ 日本らしさに配慮した計画

以下について、記述すること。その際、配慮した項目については、それぞれ目的、内容、想定される効果を具体的に記述すること。

○日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する方策

○日本の気候・風土、伝統を踏まえた木材利用の方策

⑨ 環境計画

以下について、記述すること。その際、配慮した項目については、それぞれ目的、内容、想定される効果を具体的に記述すること。

○明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境や景観等に調和するための具体的方策

○環境負荷軽減のための具体的方策・設備計画

⑩ 構造計画

以下について、具体的に記述すること。

○屋根を含む構造計画

- ・屋根の架構計画については、②基本図面の断面図等と関連づけながら記述すること。

⑪ 建築計画

以下について、具体的に記述すること。

○観客席の形状及び観客の動線計画、避難計画等を含む建築計画

4 設計業務（基本設計、実施設計）及び工事施工等業務（施工技術検討）の見積

別紙様式6により作成すること。なお、価格等の交渉に係る費用は、工事施工等業務費（施工技術検討）に含むものとする。

## 採点の運用方針について

平成27年11月13日

「技術提案書の審査基準」について、以下のとおり運用する。

なお、提出される技術提案書の内容を踏まえ、必要がある場合は、本運用について見直しを行う。

- 「新国立競技場整備の基本的考え方」に沿ったスタジアムを整備することのできる事業者が選定されるよう、評価項目ごとの配点の幅を十分に活用し評価を実施する。
- 「事業費の縮減」のうち「事業費の縮減幅」については、概ね1割減の縮減を「B（優れている）」と評価し、縮減幅を連続的に評価する。
- 「工期短縮」のうち「工期の短さ」は、工期短縮の目標である平成32年1月末まで短縮した場合を「B（優れている）」と評価し、短縮幅を連続的に評価する。
- なお、各項目は原則として6段階の評価（A～F）としているが、委員が特に必要と考える場合は、委員の判断により、さらに詳細な区分による評価（A'、B' 等）を認めることとする。